



生産から1次加工、6次産業化まで多角的に経営

たつの市 株式会社 ささ宮農



私たちの思い

日本の活力の源でもある「農地を守る」ということが一番の思いです。スマート農業を進め一方、先人たちから引き継いだ人の目と手をかける栽培方法も大切にしています。

私たちのこだわり

主力ブランド「ささのうまい米(うまい)」をはじめ、天日干し製法の「はさがけ米」や水田にメダカを放流し栽培する「めだか米」など、こだわりの米づくりで多様な消費者ニーズに対応しています。

おもな作物

米は年間160tを給食センターやスーパー、大阪の販売所へ出荷。小麦年間63t、大豆年間15tはJAから株式会社 ヒガシマル醤油へ。バジル年間54tは一次加工後、神戸の調理食品専業メーカー、エム・シーシー食品株式会社へ出荷。



外観



県

推奨ブランド米と高収益作物の栽培で地域の元気アップにも貢献

清流揖保川の豊かな水源を活用して農業を営む「株式会社 ささ宮農」。米、大豆、小麦、バジル、季節の野菜など、約56haの農地を管理しています。主力の米づくりは、他との差別化を図るために、2013年に有機肥料による特別栽培で兵庫県認証食品を取得。安全安心でおいしいお米を消費者へ届けています。また2004年、当時では珍しかったバジルの生産を開始。その後には自社工場が完成。朝早くから手摘みしたバジルを新鮮なままペーストにして冷凍しています。その品質の高さは西播磨フードセレクション金賞を受賞するほど。生産が追い付かず地元農家も巻き込みながら、地域と共に発展していく姿は頼もしい限りです。

働く人

INTERVIEW



竹北 貢さん(46歳)

2010年入社。経営方針や作付計画全般、ささ宮農と加工場の総括を担当しています。農業は自然と向き合う仕事なので常に変化があります。そこが楽しめるところだと思います。



森口 正也さん(31歳)

新しい農業の技術や作物に興味があり2017年入社しました。土づくりから植え付け、収穫とさまざまな作業を担当しています。消費者に信頼される農業を目指していきたいです。

INTERVIEW OF TOP



休日や各種社会保険を完備して一緒に働く人を待っています

株式会社 ささ宮農 代表取締役 八木 正邦さん

今後も整備が進み、管理面積は増え続ける予定ですが、従業員数が少なく着手できないのが実情です。農業に従事する若者を「金の卵」と思い、会社の中核を担う人材として育成します。独立を目指す若者には手厚いサポートで一緒に地域農業を盛り上げたいです。

所在地	〒679-4304 たつの市新宮町下笠1049
電話	0791-77-0177
FAX	0791-77-1770
HP	https://www.sasaeinou.com/
事業内容	農業、機械修理、加工、販売
設立	2006年
資本金	3000万円
売上高	2億2000万円
従業員数	11名、パート50名



インターンシップ
随時受け付け。詳細は問い合わせを。



社名の「J」は二代目、「McCoy」は本物、逸品

たつの市

株式会社 J McCoy(ジェイマッコイ)



私たちの思い

「人に喜びを与え、必要とされる企業」を目指しています。そのためにまず我々「働く人」が幸せであること。「家族や友人に話したくなる仕事をしよう」をモットーにしています。

私たちのこだわり

地域にとってかけがえのない存在になりたいです。小学生などを対象に、田植えや稻刈り、ブルーベリーの摘み取り体験で地域農業の大切さを広めるなど、地域との関りを深めています。

おもな作物

夢ごこち、ミルキークイーン、ヒノヒカリ、もち米を合わせて年間60tを事業所、直売所、個人へ出荷。小麦年間37tと小豆年間4tをJAへ。大豆年間5tをはじめ黒大豆、れんこん、ブルーベリーは6次産業として商品加工も。



自

然派志向の人々から絶大なる支持
化学肥料に頼らない本物の味を提供

たつの市北部、昼夜の気温差が大きく作物づくりに適した場所にある「株式会社 J McCoy」。減農薬、無化学肥料、作物によれば完全無農薬で、米や大豆、ブルーベリーなど、約23haを作付けています。緑肥を田畠にすき込み、米ぬか、くず大豆を散布し、除草剤ではなく除草機で雑草を抜き、ばかし肥料など有機肥料や自社製の竹パウダーを使用するなど、農薬や化学肥料に頼らない循環型農業です。「自然のエネルギー」や植物、商品にはできないけれど肥料として役立つ副産物の力を借りて生産しています」と語る上田哲也代表。その姿勢に賛同者は多く、地元はもちろん全国に美味しい安全安心な「J McCoy」の味を届けています。

働く人

INTERVIEW



島 純太さん(26歳)

岡山理科大学を卒業し、2016年に入社。栽培全般の作業とリーダーとして他のスタッフのマネジメントを担当しています。農業のことは全く知らずに働き始めましたが、代表が丁寧に教えてくださり成長できました。これからは難易度の高いことにもチャレンジし、できることを増やしていきたいです。

外観



INTERVIEW OF TOP



「美味しい!」と言ってもらえる作物づくりは
ワクワクしながら働くこと

株式会社 J McCoy 代表取締役 上田 哲也さん

従業員を大切にする職場です。土日祝の休みや各種保険の完備だけではなく、給与査定においても面談で点数化する方式を採用しています。また、ワクワクしながら仕事をすることをポリシーとしていて、楽しく働く環境は整っていると思います。これからはイベントや展示会に積極的に参加してつながりを増やし、従業員も会社も一緒に成長していきたいです。

インターンシップ
随時受け付け。詳細
は問い合わせを。





高品質なヒナの供給で食卓に笑顔と健康を届けます

たつの市

有限会社 新宮ファーム



私たちの思い

「笑顔と喜びと活気に溢れ、優れたる多くの人々が集い、真に社会に貢献し、食の源である畜産・農林漁業を支え発展させる日本一の創造力みなぎる企業となる」という藤橋家グループの経営理念を胸にがんばっています。

私たちのこだわり

地域住民と環境に配慮して臭気、汚水、粉じん対策を設立当初から行っています。肥料となる発酵鶏糞は「良い野菜が育つ」と好評で、地域と共に発展していく企業を目指しています。

おもな產品

藤橋家グループの一員として「村上ポートリー」への出荷を含み、年間70万羽のヒナを兵庫県・岡山県・京都府・奈良県・高知県・広島県・島根県などへ出荷。また、年間約450tの発酵鶏糞を近隣農家へ販売しています。



外観



ヒナの小さな命に愛情と真心を込めて 元気な採卵鶏へ育てます

「有限会社 新宮ファーム」は、たつの市新宮町を流れる揖保川にほど近い場所にあります。ヒナが生まれてから鶏卵を生産できるようになる約4ヶ月間の育成事業をしています。「健康で卵をしっかりと産める高品質なヒナ」に成長させるため、鶏舎の衛生対策、温度管理を徹底。また、免疫力を高めるワクチン接種や、元気なヒナに育てるために善玉菌を増やすビタミン剤や制菌剤を与えるなど、新宮ファームが培ってきた飼育法を基本に、日々最新情報を取り入れながら育成しています。愛情いっぱいで育てたヒナたちは、「元気で卵をよく産んでくれる」と出荷先から安心、信頼、満足の声が多く寄せられています。

働く人

INTERVIEW



富田 裕紀さん(22歳)

兵庫県立佐用高等学校農業科学科を卒業し、2016年に入社しました。鶏舎1棟、約3万羽のヒナの育成管理を担当しています。ヒナはストレスから病気になることが多く、猛暑や極寒の温度管理を自分なりに工夫して過ごしやすい環境を整えています。今後の目標は元気なヒナをお客様に届ける出荷リーダーになることです。

INTERVIEW OF TOP



新宮ファームをお客様から信頼され、 満足される会社と一緒にていきましょう

有限会社 新宮ファーム 農場長 福田 浩行さん

私たちの仕事は、手のひらに乗る小さいヒヨコを多くの技術と知識で鶏にまで成長させる「命を育てる」仕事です。卵は日本の食卓には欠かせない栄養食品。多くの家庭の食卓を支えるやりがいのある仕事です。生き物相手なので試行錯誤することが多々ありますが、提案を受け入れる風土がある職場です。私たちと一緒に充実した日々を送りましょう。

所在地	〒679-4314 たつの市新宮町曾我井103
電話	0791-75-2280
FAX	0791-75-4786
HP	https://fujihashiya-shingu.com/
事業内容	採卵鶏育成事業
設立	1982年
資本金	1000万円
売上高	4億6000万円
従業員数	10名

インターンシップ
随時受け付け。詳細は問い合わせを。





「博農にんじん」が日本青果物ブランド推進協議会認証を獲得

たつの市 株式会社 博農



私たちの思い

栽培・収穫・出荷すべてにおいてきめ細かな仕事を心がけています。お客様が必要とする用途に合わせた最適な品種、調理・加工方法の提案など、「野菜のオーダーメイド栽培」を心がけています。

私たちのこだわり

取引先のニーズとともに、家族の「食」を預かる主婦の目線を大切にしています。女性従業員も積極的に商談に参加。調理方法やレシピの提案などを通じて、出荷野菜に付加価値を付け、販路・売上拡大に貢献しています。

おもな作物

にんじん・キャベツ・ブロッコリー・だいこんなど、栽培する野菜品種は約25品目に及びます。JAを通じて京阪神の市場へ出荷するほか、京阪神・名古屋のスーパー各社、契約飲食店などへも出荷。



丁

寧に育て、丁寧に収穫、丁寧に出荷 付加価値の高い野菜づくりで販路を拡大

たつの市臨海部に位置する広大な干拓地「成山新田」が「博農」の生産現場です。育てるところから収穫・出荷、店頭に商品が並ぶまで、すべて「丁寧に」を基本に野菜栽培を行っています。心がけているのは「取引先や消費者に“買ってもらう”ではなく、“買いたいと思わせる”野菜をつくること」。「博農にんじん」は2019年9月、日本野菜ソムリエ協会も参加する「日本青果物ブランド推進協議会」による第1回ブランド認証品目に認定。「糖度が高くジュースにも最適。子どもも大好きになるにんじん」と高い評価を獲得しました。「農業をこよなく愛する」ことが原点の同社では若手や女性従業員のアイデアを積極的に活用し販路を拡大。「選ばれる野菜」づくりに邁進しています。

外観



働く人

INTERVIEW



玉垣 祐希さん(41歳)

測量の仕事に従事した後、2019年6月入社。もともと野菜が好きなことと、一から育てて作物というカタチになる農業にやりがいを感じて入社しました。アットホームな会社で毎日が学びの連続です。同じ志をもつ他の農業法人との交流や研修の場も多く、農業を一生続けていこうと思っています。

INTERVIEW OF TOP



農業経営体にとって一番大切なのは人材モチベーションがあって自分なりの夢をもつ若い農業人を育てたい

株式会社 博農 代表取締役 八木 隆博さん

農業をひとつの産業として存続、発展させていくために、これからは作物に付加価値を付け、つくり手が優位に立てる販路を開拓していくことが重要になります。農作物を育てることは母親が子どもを育てることと似ています。「農業が好き」、「育てることが好き」な人を歓迎します。夢を持って野菜のプロフェッショナルを目指しましょう。

所在地 〒671-1321
たつの市御津町苅屋1036-1
電話 079-322-4500
FAX 079-322-4600
HP <http://www.hakunou.co.jp>
事業内容 農産物の生産販売、
加工食品の製造販売
設立 2012年
資本金 1000万円
売上高 1000万円(※)
※加工業務用部門
従業員数 4名(うち女性2名)、
パート8名(同7名)



インターンシップ
随時受け付け。宿泊も可。詳細は問い合わせを。



行政と農業協同組合が共同出資。地域の農業を守っています

宍粟市

一般財団法人 宍粟北みどり農林公社



私たちの思い

「豊かな自然あふれるこの地の農業の火を絶やさない」ことを胸に刻み、全職員一丸となって少しでも農家さんのお役に立てるようがんばっています。

私たちのこだわり

農作業受託部門では「耕うん(防除を含む)」「育苗」「田植え」「稲刈り」「ライスセンター(糊摺り)」「大豆の乾燥、脱穀」など幅広くお手伝いをしています。農地所有者からの依頼にはできる限り応えていこうと考えています。

おもな作物

農業経営部門は水稻(コシヒカリ、キヌヒカリ)11haで年間約50tを生産。丹波黒大豆は7haで同約4.5t。他に白大豆など。いずれもほぼ全量をハリマ農業協同組合に出荷しています。



外観



「地域の農地は地域で守る」を合言葉に 森林王国「宍粟市」の農業を支える

宍粟市一宮町の、山あいに水田が広がる地域に「宍粟北みどり農林公社」はあります。1994年、当時の一宮町・波賀町・千種町(いずれも現宍粟市)の3行政と同地域を業務区域とするハリマ農業協同組合の4者によって設立されました。中山間地が多い同地域の農業を守り育てることをモットーに、職員が専門的な知識と技術で農家を幅広く支援しています。農業経営部門では米や丹波黒大豆を生産。農作業受託部門では稻作を中心に宍粟市北部3町の水稻作付用箱苗約7万6,000枚を供給することも行っています。地域の特産品である丹波黒大豆は、「兵系黒3号」の原種ハウスを設置し、ウイルスフリーの種子を確保。健全な種子を栽培農家に提供しています。

働く人

INTERVIEW



金井 孝文さん(44歳)

千種町の出身です。トラックドライバーを経て、当公社のアルバイトを3年経験し2014年正職員となりました。この地域は地理的に自然も厳しく農業を続けていくには大変なことが多いですが、受託している農家さんから感謝いただいたり、地域の農業を守ることで地元に貢献できることにやりがいを感じています。

INTERVIEW OF TOP



農業を通じて地域に貢献できる仕事
ふるさとを愛する人材を歓迎します

一般財団法人 宍粟北みどり農林公社 常務理事 雲田 清司さん

当公社が担う宍粟市北部地域は、農業従事者の高齢化や遊休農地の拡大により農業にとっては厳しい環境にあります。コシヒカリやキヌヒカリなど、宍粟市で育てたおいしいお米を絶やすことなく、この地域の農業を守っていこうという意欲のある人材を求めてています。また、当公社では一般企業同様の就労環境も整えています。地元出身者歓迎!

所在地	〒671-4144 宍粟市一宮町下野田63-1
電話	0790-72-1720
FAX	0790-72-2430
HP	http://shisokita-nourin.or.jp/
事業内容	農業経営事業(水稻・黒大豆・白大豆等の栽培)、農作業受託事業、農産加工事業
設立	1994年
基本財産	1億2125万円
売上高	1億4000万円
従業員数	職員数 8名 (うち契約職員1名)

インターンシップ
随時受け付け。詳細は問い合わせを。





兵庫県畜産共進会において最高位の「名誉賞」を通算8回受賞

美方郡香美町 株式会社 上田畜産



名牛の産地・美方地域で、 究極の但馬牛を目指して

「上田畜産」の牛舎がある兵庫県美方郡は、昔から但馬牛の飼育に熱心な地域で“名牛の産地”といわれています。ここでは優れた資質・肉質を持つ但馬牛の遺伝子を後世へ継承するために、郡内の牛だけを遺伝資源として地域固有の血統を守ってきました。加えて、飼育を通じて地域の暮らしや自然環境などの保全も担ってきた耕畜連携の農業体型が評価され、2019年2月に畜産分野で初めて「兵庫美方地域の但馬牛システム」として日本農業遺産に登録されました。この美方地域の伝統的な畜産技術をベースにして、同社代表が12頭の母牛で繁殖経営を開始したのが1992年。以来、牛たちに惜しみない愛情と手間をかけながら常に「但馬牛」の品質向上に努めています。

働く人

INTERVIEW



水間 達哉さん(20歳)

兵庫県立但馬農業高等学校畜産科を卒業し2018年に入社。畜産農家になることは子どもの頃からの夢でした。将来の独立に備えて、ここの「完全一貫生産体制」からたくさんのこと学びたいと思っています。



上田 晃也さん(22歳)

兵庫県立但馬農業高等学校畜産科を卒業後、大学進学を経て2018年に入社。子どもの頃から父と同じ道に進みたいと考えていました。健康で優良な牛になるように一頭一頭心を込めて世話をしています。

INTERVIEW OF TOP



高品質な但馬牛を生産しながら、 牛飼い仲間も増やしたい

株式会社 上田畜産 代表取締役 上田 伸也さん

「完全一貫生産体制」を実現し、各工程での品質のチェックや消費者ニーズの把握から得た情報を、内臓から尻尾の先まで優良な「但馬牛」を生産することに生かしています。また、起業を目指す若者を育成・支援し、牛飼い仲間を増やしていきたいと思っています。

所在地	〒667-1511 美方郡香美町小代区神水738
電話	0796-97-2929
FAX	0796-97-2915
HP	https://gyusho-ueda.co.jp/
事業内容	但馬牛の繁殖、肥育、精肉、販売
設立	2009年
資本金	500万円
売上高	5億3000万
従業員数	15名(パート含む)





複合経営のメリットを生かし安定した通年雇用を実現

美方郡新温泉町

株式会社 湯村温泉愛宕(あたご)山観光



私たちの思い

「スキー場」「飲食・宿泊業」「農業」という経営の三本柱を連携させ、継続可能な経営を目指しています。米づくりでは、この地域に合った栽培方法で手を抜かず心を込めて作業しています。

私たちのこだわり

営農部門で収穫した自慢のコシヒカリを、但馬牧場公園内のレストランや宿泊施設で提供したり、飯米を醸造したオリジナルの純米吟醸生酒の原材料に使ったりして、そのおいしさを最大限に引き出せるように努めています。

おもな作物

コシヒカリ約4haと水稻種子を約4ha栽培しています。おいしいコシヒカリが採れる地域特性を生かしながら、地元ベテラン農家の優れた技術を継承したいと考えています。



外観



地

元営農組合と協力し、意欲ある若者とともに地域が誇る「棚田」でおいしい米づくり

丹土富士と呼ばれる愛宕山を中心とする照来(てらぎ)盆地の風土を生かしたさまざまな事業に取り組んでいる「湯村温泉愛宕山観光」。兵庫県立但馬牧場公園内にスキー場や宿泊施設(まきばの宿)、レストランを経営しながら2014年から農業にも本格参入しました。盆地特有の寒暖差のある気候ときれいな水が流れ込む棚田でつくったお米は、市場でも高く評価されています。この地域でも近年、農業従事者の高齢化や人口減少に伴う担い手不足が課題となっていますが、同社では若いオペレーターを積極的に育成し、地元の営農組合と協力して地域の誇りでもある棚田の景観を次代に残していくたいと考えています。

働く人

INTERVIEW



村田 瑞樹さん(24歳)

兵庫県立農業大学校を卒業後、畜産業経営を目指して但馬牛の繁殖・肥育が盛んな新温泉町に地域おこし協力隊として移住。たくさんの田んぼを管理できるように大型特殊免許を取得しました。



土山 史登さん(23歳)

兵庫県立農業大学校では畜産を学び、新温泉町に地域おこし協力隊として移住しました。隊員として活動しながら水稻栽培を勉強中。水稻も牛も日々の管理が大切なことを実感しています。

INTERVIEW OF TOP



複合経営で可能となる通年雇用。

若い担い手を育成したい

株式会社 湯村温泉愛宕山観光 代表取締役 西坂 修さん

スキー場なども複合経営する当社では、営農部門の栽培品目が米のみであるにもかかわらず、通年雇用を可能とする強みがあります。農業経営を目指して他府県から来た若者たちには、但馬の慣習や文化にも親しみながら米づくりを学んでほしいと思います。

所在地	〒669-6813 美方郡新温泉町丹土1033
電話	*本社事務所は「まきばの宿」内 0796-92-1005
FAX	0796-92-1006
HP	http://www.bokujyo.com/
事業内容	宿泊、レストラン、 スキー場経営と営農
設立	1972年
資本金	4500万円
売上高	9000万円 (営農部門900万円)
従業員数	5名(うち地域おこし協力隊1名)





丹波のクリーンな環境の中で兵庫県のブランド牛を育てる

丹波市 有限会社 井寄牧場



私たちの思い

世界に誇る但馬牛・神戸ビーフの生産に力を注いでいます。長年の知識と経験、牛を見極める目を大切に肥育管理し、丹波の自然の中でストレスを与えることなく育てています。

私たちのこだわり

クリーンでドライな牛舎で、牛をのびのびと育てています。飼料にはエコフィードを使用し、丹波の自然の恵みであるきれいな水を与えています。

おもな產品

黒毛和種約1,250頭(うち但馬牛350頭)を肥育・販売しています。



クリーンな牛舎でストレスなく肥育 独自配合の飼料でおいしい牛肉を生産

「井寄牧場」は姫路市夢前町で畜産業を始め、2004年法人化。2015年には本社を丹波市に移し、丹波農場と姫路農場で1,250頭の牛を肥育しています。全てが黒毛和種で、うち350頭が但馬牛。最高品質の神戸ビーフの生産に力を注いでいます。

山間部にある丹波農場は、天井が高く広く清潔な牛舎。牛をゆったりとストレスなく育て、餌はウイスキー粕やみりん粕を独自に配合したエコフィード(食品残渣を利用した飼料)を与えるなど、こだわりを持っておいしい牛肉をつくっています。畜産業界の人材不足対策にも取り組み、3棟ある牛舎を同じ規格にし、機械化を進めているのも特長です。

外観



働く人

INTERVIEW



安福 綾介さん(24歳)

中国四国酪農大学校を卒業し、入社4年目で昨年牧場長に。牛の管理全般、従業員の仕事の段取りなどを任されています。将来は酪農をしている実家を継ぎ、肥育と酪農の複合でやっていきたい。



笹原 亮さん(22歳)

兵庫県立農業大学校を卒業し、2018年4月入社。生き物が好きでこの道に入りましたが、牛が相手なので忍耐力も必要。ちゃんと休みがあり、こちらの希望を聞いてくれるのもありがとうございます。

INTERVIEW OF TOP



将来的には繁殖・肥育の一貫経営に 従業員は全ての作業を経験し将来に役立てて

有限会社 井寄牧場 丹波農場責任者・獣医師 井寄 智之さん

井寄牧場の三代目です。他社で修業後入社し、丹波農場を任せられています。どんな餌を与えるとどんな肉になるかなど、獣医として学んだことを生かしています。繁殖・肥育の一貫経営を目指し、繁殖も少し手掛けています。従業員には全ての作業を経験してもらい、将来に役立ててほしい。

所在地	〒669-3307 丹波市柏原町石戸14
電話	0795-70-5401
FAX	0795-70-5402
HP	https://iyori-bokujo.com
事業内容	肉用牛の生産・販売 家畜飼料の販売
設立	2004年
資本金	300万円
売上高	7億8000万円
従業員数	5名



インターンシップ
随時受け付け。詳細
は問い合わせを。



丹波のおいしい水でおいしい和牛を育てる

丹波市

神戸高見牛牧場株式会社



私たちの思い

繁殖から肥育までを一貫して行い、「神戸高見牛(こうべたかみぎゅう)」というプライベートブランドで販売しています。グループ企業で直売所10店舗とレストラン2店舗を持ち、消費者に直接お届けします。

私たちのこだわり

産まれたて仔牛には免疫力を高めるため、独自に開発したミルクを与えます。成牛には独自の配合飼料を使い、旨みがあり健康に良い脂質となるよう工夫しています。

おもな產品

オリジナルブランド「神戸高見牛」を繁殖・肥育。食肉の加工・販売。仔牛用ミルクなどの販売。



外観



才 リジナルブランド牛「神戸高見牛」 生産から販売まで一貫経営

「神戸高見牛牧場(こうべたかみぎゅうぼくじょう)」は1982年に代表取締役の高見進さんが、自然豊かで水がおいしい丹波市市島町に牛舎を作り、80頭の牛の肥育を始めました。今では約1,200頭を繁殖から肥育まで一貫して行い、プライベートブランド「神戸高見牛(こうべたかみぎゅう)」として提供しています。生産される牛は、両親が但馬牛の純血但馬牛と、但馬系の黒毛和牛の2種類。厳しい審査をパスした神戸牛も含まれており、数々の受賞歴を誇ります。

牛肉とパイナップルの相性がいいからと、パイナップルの搾りかすを与えるなど、さまざまなノウハウを駆使して、おいしく健康に配慮した牛肉を提供しています。

働く人

INTERVIEW



野澤 俊宏さん(33歳)

兵庫県立農業大学校出身。入社4年目の今は、繁殖を任せ、哺乳から育成を担当しています。従業員の意見も取り上げてもらえるのが魅力。実家が養豚業なので、戻ったら牛も飼いたい。



日下部 満さん(30歳)

兵庫県立但馬農業高等学校を出て、入社して12年目です。繁殖牛の世話は、仔牛が産まれたらうれしいですね。一貫経営の会社なのでいろいろな経験が積めるので、将来の糧になると思います。

INTERVIEW OF TOP



各地から研修生を受け入れ

畜産から営業までさまざまな仕事を経験

神戸高見牛牧場株式会社 代表取締役 高見 進さん

企業経営には人の根を張ることが大切だと思い、各地から研修生を受け入れています。牛の繁殖・肥育から直売店・レストランと多岐にわたる仕事を教えています。畜産から営業までいろいろな仕事を、従業員にも研修生にも覚えてほしい。

所在地	〒669-4332 丹波市市島町勅使1037-4
電話	0795-85-2914
FAX	0795-85-4060
HP	http://takamibeef.com/
事業内容	畜産・食肉加工・販売・飲食・牛用初乳販売・その他農業に係る全般
設立	2015年
資本金	1000万円
売上高	6億円
従業員数	16名



インターンシップ
随时受け付け。詳細は問い合わせを。



体にやさしいなた豆茶を丹波から世界へ

丹波市 有限会社 こやま園



私たちの思い

昔から丹波地方で一部民間薬用につくられていたなた豆を、なた豆茶として、加工販売。地元農家と連携し、自社農園で原料のなた豆を栽培。加工も自社工場で行う一貫生産です。

私たちのこだわり

乳幼児にも安心して与えられる、安全安心なものを提供したいと、有機農法にこだわり、なた豆を栽培。契約農家約50名が、我が社で決めた基準の有機栽培を行っています。

おもな作物

丹波なた豆を栽培、なた豆関連商品の開発・製造(丹波なた豆茶、サプリメント、パウダーなど)



外観



丹波で古くから薬用使用されたなた豆茶を 丹波の新ブランドに、海外進出も積極的に

農家の十代目である小山伸洋さんは、ゼネコンの現場監督として働く傍ら、なた豆に着目し、その効能効果や食べ方、販売などの研究を始めました。有機栽培にこだわり、生産者グループ「有機豆本舗丹波」を2001年に設立し、なた豆の栽培と販売を開始。その評判が口コミで広がり、さらに2004年にテレビ番組に取り上げられてから、購入希望者が急増。2006年法人化し、「丹波なた豆」(2008年兵庫県認証食品ひょうご安心ブランド)を商標登録しました。

2012年の「香港Food Expo」出展以来、アメリカ、香港で販売を開始するなど、人脈を作つて海外進出を積極的に行い、香港とベトナムに現地法人を設立し事業展開しています。

働く人

INTERVIEW



竹村 香澄さん(35歳)

JJAで約8年間勤務し、出産を機に退職。子育てしながら農業に携わりたいと、こやま園に就職しました。インスタなどでなた豆の効用などを発信し、若いお母さんに情報を伝えたい。



小山 海さん(24歳)

調理師などの勉強をした後に就農し、今年で4年目。9月~11月はなた豆の栽培で、他の時期は営業として、海外のイベントにも出かけます。農業と営業の両方できるのが、おもしろい。

INTERVIEW OF TOP



農林水産省「ディスカバー農山漁村の宝」 特別賞に、大学との共同研究も進行中

有限会社 こやま園 代表取締役社長 小山 伸洋さん

なた豆を多角的に展開するため、海外を飛び回り、効能に関しては、大学と共同研究を進めています。輸出額は2014年から4年間で10倍に。2018年に農林水産省「第5回ディスカバー農山漁村の宝」の優良事例として選定され、特別賞を受賞しました。

所在地 〒669-4141
丹波市春日町黒井1972
電話 0795-74-2152
FAX 0795-74-0058
HP <http://www.kyme.jp/>
事業内容 丹波なた豆の栽培、
丹波なた豆茶の製造・販売
設立 2006年
資本金 300万円
売上高 1億3000万円
従業員数 9名



インターナシップ
随時受け付け。詳細
は問い合わせを。